

厚生労働科学研究費補助金
難治性疾患政策研究事業
分担研究報告書

特発性傍中心窩毛細血管拡張症に関する研究

研究分担者

東京女子医科大学・医学部・教授 飯田 知弘
鹿児島大学・学術研究院医歯学域医学部系・教授 坂本泰二

研究要旨：特発性傍中心窩毛細血管拡張症は著しい視力障害の原因となり、治療法が確立されていない疾患である。国際的にも診断基準がないため、我が国における診断基準を作成中である。

A. 研究目的

特発性傍中心窩毛細血管拡張症は著しい視力障害の原因となり、治療法が確立されていない疾患である。国際的にも診断基準、診療ガイドライン、手引き等はないため、我が国における診断基準を作成することを目的に研究を行った。

B. 研究方法

診断基準を作成するために、過去に特発性傍中心窩毛細血管拡張症に関して報告されている論文を調査して、それぞれの研究で診断を行った検査所見などを抽出した。

(倫理面への配慮)

診断基準の作成であるので、倫理的問題はない。

C. 研究結果

黄斑部毛細血管拡張症 2 型 (type2) のガイドライン (案) を作成した。名称については議論の上、「特発性」を除き「黄斑部毛細血管拡張症 2 型:Macular telangiectasia;MacTel」を軸にして世界の動向をみながら決定し作成する。画像に関しては、疾患症例数が少ないため、特に網膜下新生血管の画像提供を班員に呼びかけ典型例を示したガイドラインを作成する。

D. 考察

診断基準を作成することにより、診療ガイドラインや手引き、さらには疫学研究や将来のデータベース化に有用になるとと思われる。

E. 結論

診断基準の策定は特発性傍中心窩毛細血管拡張症患者の福祉の向上に寄与する。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

